

Discovery H. S. Kanzaki

2017. 11. 16

第378号

兵庫県立神崎高等学校

TEL 0790-32-0209



夢を発見し実現できる学校

ディスカバリー

ハイ スクール

カンザキ

職業人講演会



11月15日(水) 4校時に「キャリア探索プログラム」の一環として進路講演会を実施しました。講師は、元川崎重工業(株)の濱田豊機氏。講演テーマは、「社会の仕事と進路の探し方」でした。本社営業総括本部での仕事に携わっておられたので、会社組織に詳しく、また海外経験も豊かな方でした。講演会は、高校生として本来あるべき姿、勉強と部活動を中心とした生活、社会の中で会社が果たしている役割、また会社組織や職種など、最後に進路の探し方として自己・他者分析の大切さを分かり

易く説明して頂きました。最後に生徒代表の挨拶にもありましたが、社会の変化も考えながら自分に適した進路を考えるきっかけになったのではないかと思います。生徒たちはこの講演をヒントに『自分の夢・生き方を考える』という題で作文を書く予定です。後日、クラス代表者を決定して、12月に『夢を追う神高生の主張』として発表します。

上方落語寄席

11月15日(水)の午後、本校体育館において、上方落語高校寄席を開催しました。

吉本興業に所属されている桂三金、桂三幸の両落語家による話芸を心ゆくまで楽しむことができました。

まず、落語の紹介では、落語の基本的な仕草、特に男女の動作の違いなどを分かりやすく説明していただきました。

次に、本校生が参加したワークショップでは、



うどんを食べる仕草と音の出し方に試行錯誤で挑戦し、多くの笑いを誘っていました。飛び入りで参加した菅生先生も緊張した面持ちで、出された課題に挑戦していました。

続いて、寝ようとしないうちを寝かしつける父親が逆に寝てしまう、という内容を扱った、三幸さんの落語に魅了されました。



さらに、三金さんの英語落語は、ちよっとグロテスクな話題を扱った、聞く者の想像力を掻き立てるものでした。なまの落語を聞いたことがない生徒が多い中で、日本の伝統芸能に触れる機会となりました。

ゆずマラニック

11月12日(日)、『第4回神河町名水めぐりゆずマラニック』が開催され、陸上競技部9名がボランティアスタッフとして参加しました。当日は天候にも恵まれ、絶好のマラソン日和となりました。参加者は神河町名産のゆずを使ったドリンクやケーキなどに舌鼓を打ちながら、マラソンとピクニックを楽しみました。



ちょっと一言 ◇11月15日(水)は、深まりゆく秋の日を楽しむ「講演(公演)会デー」となりました。進路講演会の講師としてお越し頂いた濱田先生は、日本を代表するトップ企業の営業マンとしてのご経験を基に語りかけて頂き、片や落語公演を行って頂いた桂三金さん、三幸さんのお二人には伝統話芸の醍醐味を十二分に語って頂き、全校生・全教職員が抱腹絶倒の幸せな一時となりました。ありがとうございました。(H. H.)